

## 昭和産業株式会社 2026年3月期 決算説明会 主な質疑応答

開催日時: 2026年5月20日(水)10:30~12:00  
当社出席者: 代表取締役社長執行役員 塚越 英行  
取締役専務執行役員 事業・営業部門統轄 鈴木 孝明  
常務執行役員 テクニカル部門統轄 仙波 美智代  
常務執行役員 コーポレート部門統轄 白井 潔

**質問:中計 26-29 の飼料事業の営業利益平均目標が 2025 年度実績よりも下がっている理由は?**

回答: 今中期経営計画策定時点では、2025 年度の見込みよりかなり改善するものとして目標を立てたが、策定時点と比較して 2025 年度の実績が大幅に上振れて利益貢献する結果となった。2025 年度の実績と比較すると目標値が低くなっているが、当初の計画目標である8億円をしっかりと確保していく。

**質問:ボーソー油脂の設備投資について、計画の見通しを教えてください。**

回答: ボーソー油脂への 53 億円の投資は、製油を今後我々が目指す高付加価値への注力によるボラティリティの低減という目標を達成するために必要な投資と判断している。2026 年度からは各分野別に ROIC で投資判断をしており、投資に見合うリターンが得られるものに対してはきちんと投資をしていく。

**質問:中東情勢の影響について、2027 年 3 月期の業績予想にどれ位の影響を織り込んでいるのか教えてください。他の食品メーカーでは一部商品の販売休止の動きもあるが、そういった対応をするのか。**

回答: 中東情勢の影響は、2027 年 3 月期の業績見込みの中に具体的な数値として織り込んでいない。エネルギーも含め色々なコストが上がってくる想定はしている。仮に、原油の価格が 100 ドルとした場合、年間で 5~10 億円程度のコストアップ、150 ドルであれば 15~20 億円程度のコストアップとみている。他社では販売休止銘柄が出てきているが、当社製品には現時点ですぐに供給できなくなるものはない。一方で今後の供給を確約するものではない。

**質問:飼料事業について、前期は飼料用米が不足していたが、2026 年度の確保状況は?**

回答:飼料用米は 2026 年度も 2025 年度同様に減少する見込みである。ただし、これまでに取り組んできた新しい飼料原料として一定量は残したいと動いている。今後の米の需給次第では、供給量が戻ってくる可能性もあると考えている。

**質問:販売価格差と売上原価差について、値上げ効果等がどちらにどのように表れるのかももう少し詳しく教えてください。**

回答:販売価格の値上げによって、上昇した差分は販売価格差として表現される。売上原価差は、原料穀物価格も含めた原価が前期に比べて上がったのか下がったのかを反映し

ている。

**質問:**中東情勢によって、包装材について食品メーカー各社がインクやプラスチック容器の仕様を簡素にし、供給を優先するような施策を取り組んでいるが、御社の対応は？

回答：包装材料の値上げについては製品価格に反映させていく方針。業務用の一斗缶を束ねるフィルムやPPバンド等かなり供給がタイトになってきているものもあるが、配送方法を工夫することで対応している。また、資材メーカーと十分に情報交換をしており、今すぐに調達ができないというものはないが、供給に支障が出る場合に備えて、代替品のトライアルを行っている。

**質問:**ファイトケミカルプロダクツ社について、将来的なビジョンを教えてください。

回答：オレオケミカル分野のバイオ燃料については比較的早く事業化の検討が進むとみている。スケールアップした設備での製造における課題解決などを優先的にすすめていく。また、ファインケミカル分野においても、スーパービタミン E やパラフィンなどは非常に顧客の関心が高いが、まだ研究の段階であるため、実用化にはもう少し時間がかかると判断している。

以上